

普及だより



「担い手の育成・確保」

今回は、担い手の育成・確保ということでお話します。

昨年2011年は、2月の高病原性鳥インフルエンザの発生に始まり3月の東北大震災、9月の紀伊半島大水害の発生など和歌山県、そして日本にとって大変な年、受難の年でありました。この災害によって我々日本人がそれまで持っていた価値観や常識が覆される一方、それまでとかく忘れがちであった人と人の「絆」の大切さ、日本人の持つ規律正しさや秩序などが改めて見直された1年でありました。

また、昨年末には政府によりTPP交渉への参加表明がなされました。

政府では、本年を国際化に対応した農業実現のための構造改革元年と位置づけ、後継者対策や農地対策などの施策を集中的に実施することとしています。

ただ、日本農業については、高齢化の進行（65才以上の農業就業割合：62%）や農家数の減少（直近20年間で2/3に減少）、耕作放棄地の増加（直近20年間で2倍に増加）などによりTPPの参加不参加以前に既にその構造改革は待たなしの状況にあると言えます。

こうした中、和歌山県においては、土地利用型農業を主にした国施策とは違う独自の担い手対策や農地対策が求められており、特に果樹や野菜花きなど集約型農業に対応した担い手対策が必要であると考えています。

そのためには、今までの農業という業界内だけの担い手育成や法人化推進等による経営強化にとどまらず、他産業からの新規参入者の受入による産業基盤の強化や経営の多様化が重要であり、昨年の震災等で見直された人と人の「絆」を大切に、農業者団体への活動支援や相談活動に積極的に取り組むとともに、JA法人等による地域密着型の担い手育成やトレーニングファームによる新規参入者支援など多様な担い手を育成・確保するための新たな仕組みづくりを進めていきたいと考えています。

皆様方のお力添えをいただきますようお願いいたします。

海草振興局農業振興課長



がんばっています

「新規参入から6年！NPO法人設立！」



(左：吉川誠人さん、右：吉川幸子さん)

NPO法人にこここのうえん（和歌山市）

吉川誠人さんは、平成18年に新規就農し、「にこここのうえん」として、現在、和歌山市内において、米、野菜、果実など50種類以上の品目を生産・販売しています。にこここのうえんでは、農産物の生産・販売だけでなく、子どもから大人まで対象にした農業体験や餅つき体験などの食育活動や、「農」がもつ多面的な機能を活かして、社会や人とコミュニケーションをとることが困難な人を作業員として受け入れるなどの社会参加支援も行っています。これらの活動の幅を広げるため、昨年7月にNPO法人にこここのうえんを設立しました。

今後、自家製小麦のパン製造・販売など6次産業化も視野に入れながら、人が集まって楽しい時間を過ごせる農園作りをめざして、さらに活動がパワーアップしそうです。

地域農業を守りたい！

熱い思いで農業法人設立



株式会社アグリス山口

株式会社アグリス山口は、和歌山市山口地区で農地の耕作放棄地化や宅地化が進んでいることを危惧した地域の有志3名の方が、農地を守り、農業を維持・発展させたいとの思いから平成23年4月に設立した農業法人です。地区で農業を辞めた方や高齢の方などから農地を借り受け、今年度は稲や、キャベツ、チンゲンサイなどを栽培し、事務所での直売や近くのスーパーでの販売を行っておられます。今年1年やってみて経営の大変さを実感し、頻りに集まって話し合う中で改善点も見え、来年に向けてさらに意欲的に取り組もうとされています。今後は借り受けた農地での農産物生産や作業受託に加え、体験農園なども視野に入れられているとのこと、地域農業をもり立てる中心的な担い手となられることを期待しています。

農業士会の活動

和歌山地方農業士会では、会員の経営発展や相互の交流を目的として研修会を実施しています。平成23年3月には、姫路市の片倉チッカリン（株）で肥料の製造方法や効果について、ヒガシマル醤油（株）で農商工連携による地場産原料での淡口醤油造りと小麦産地の育成について研修を受けました。

また、女性部会の活動も積極的で8月には、大阪府和泉市有限会社「いずみの里」で、法人化や米粉パンやジャム、味噌などの加工販売の取り組みについて研修を受けました。



ヒガシマル醤油での話し合い

4Hクラブの活動

和歌山地域農村青年交流促進協議会と和歌山地方4Hクラブが主催で交流会を開催し、4Hクラブ員11名と県内外の女性12名が参加しました。京都での和菓子作り体験や匂い袋作り体験、グループに分かれての祇園散策などでの交流をしました。また、昼はおばんざいビュッフェ、夜は鴨川沿いのダイニングカフェで食事を楽しみました。参加者からは「楽しかった。また参加したい。」という感想を頂きました。今後も参加者と一緒に楽しみながら交流会を行っていきます。



和菓子作り体験

大崎鳥獣害対策モデル地区の取り組み

大崎地区内には、イノシシ捕獲者がいないため、他の地域のハンターに委託していました。そこで、「自分たちの地域は自分たちで守ろう」を合い言葉に、個体数調整（捕獲）を重点的に取り組んでいます。まず、地区の代表者4名が狩猟免許を取得し、捕獲技術の向上を目的に、農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーの和田先生を招き、わな（檻、くくり）設置方法のポイントについて研修を行いました。



サンショウへの生育促進効果を検討

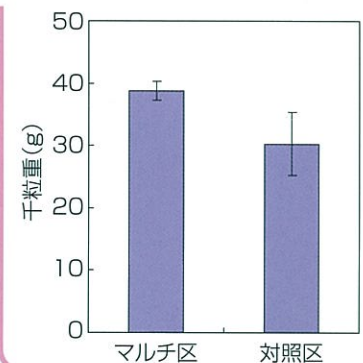
生サンショウは5月～6月中旬まで出荷され、5月20日頃まで高価格で取引されます。生育促進のため、透明マルチを4月19日～5月16日に敷設しました。

敷設により地温が最大6℃上昇し、果実の千粒重は5月20日で約8g大きくなりました。



アボカドへの取組

海南市の小南地区では若手農業者6名が集まり「小南アボカドの森」を結成、遊休農地（120a）を活用してアボカド栽培を始めました。耕作再開まで大木の伐採等危険や苦労もありましたが、これから樹と夢を大きく育てていきます。



食育への取組

子供たちに「食」の大切さや地元農業と農産物への理解を深めてもらうため、農業体験学習や郷土食体験を行っています。

農業体験では、小学生95名が農家の指導のもと「田植え」と「稲刈り」を行い、農業と食べ物の大切さを学びました。



郷土食体験では梅干加工実習と郷土料理の実習を行いました。どちらも生活研究グループの食育ボランティアの方々に指導して頂きました。梅は白干し作り、郷土料理体験では地元の食材を使って、栗ご飯やのっぺい汁、みかんゼリーなどを実習しました。子供たちは、自分たちで作った料理に満足し、「家でも作ってみる。」という声も聞かれました。



技術交換大会で和歌山地方4Hクラブ小杉君が1位に！！

平成23年5月10日に和歌山県4Hクラブ総会と技術交換大会が開催され、和歌山地方からは4名が参加しました。技術交換大会では、農業に関する知識が幅広く試され、結果は、和歌山地方4Hクラブから小杉君が見事1位となりました。小杉君は、「初めて受けてみて、まさか1位になれるとは思ってなくて、驚いた」と感想を話していました。



受賞おめでとうございます

和歌山県農林水産業賞

農業部門 曲里広一さん（紀美野町）



この賞は農林水産業の振興発展並びに農山漁村の活性化に貢献し、業績が特に優れ、ほかの模範となるべき個人及び団体の功績を表すものです。

農事功績者表彰 緑白綬有功賞

西村芳規さん（和歌山市）



緑白綬有功章を河西地区農業士会の西村芳規さんが受章されました。西村さんの農業経営や地域への貢献が評価されたもので、受章を契機にして、益々のご活躍が期待されます。

第60回全国毎日農業コンクール全国大会 名誉賞（農林水産大臣賞）受賞

JAわかやま生姜生産販売連絡協議会



この賞は卓越した農業経営を展開する全国各地の個別農家や協業組織などが創意工夫を凝らした先進的な取り組みを表すものです。

和歌山県食育表彰

貴志正幸さん（和歌山市）



貴志正幸さんは、地元小学生や大学生に田植えや稲刈り体験の場を提供し、農業体験等を通じて、食育活動に尽力されています。

和歌山県女性・高齢者グループ表彰 農林水産部長賞

和歌山県農業士女性部会



この賞は農山漁村の活性化に優れた実績をもち、男女共同参画等の推進実績を持つ団体の功績を表すものです。

農業振興課ではホームページでも農業に関する情報を提供しています。ぜひご覧になって下さい。

URL:<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130100/sangyou/130151/toppage.html>

編集後記

昨年は水害や津波などの自然災害で身近な人との『絆』の大切さを多くの日本人が改めて感じた一年となりました。TPP問題や異常気象などが取り沙汰されている中、農業者同士の絆の大切さを改めて心に留めておきたいものです。